

## 第2回 小瀬川河川整備懇談会 (議事要旨)

開催日時：平成22年11月16日（火） 13：30～17：00  
(現地視察 13：30～16：00 懇談会 16：00～17：00)  
場 所：小瀬川現地、大竹会館 2階 大集会室（広島県大竹市）

出席委員： 鎌倉 秀章（中国経済連合会専務理事）  
河原 能久（広島大学大学院工学研究科教授）  
関 太郎（広島大学名誉教授）  
瀧本 浩一（山口大学大学院理工学研究科准教授）  
永井 明博（岡山大学大学院環境学研究科教授）  
畠中 昶臚（大竹市文化財審議委員）  
藤野 完二（環境省登録環境カウンセラー）  
村上 恭祥（元広島県水産試験場長）  
森江 堯子（NPO法人国際環境支援ステーション副理事長）

9名出席

### <現地での意見>

#### 明神原なごみ広場について

##### 【委員】

・広場は、国土交通省の方で整備を行ったのか。

##### 【事務局】

・農林水産省の農村総合整備事業と、国土交通省のダム湖活用環境整備事業との連携事業として整備を行った。

##### 【委員】

・広場は、洪水時には冠水するのか。

##### 【事務局】

・洪水時最高水位では、桜を植栽した部分を含めた広場全面が冠水する。

##### 【委員】

・広場は、体験学習などで利用していないのか、地元の方だけが利用しているのか。

##### 【事務局】

・普段は地元の方が主に利用されているが、桜祭り等のイベント時には遠方からも多数の入り込み客がある。炭焼き小屋等もあるので、体験学習などでも利用していければ良いと考えている。

#### 河川環境について

##### 【委員】

・両国橋付近は上流付近の河床と異なり、アユの産卵条件としては良好な状況となっている。重機等を用いて、河床を攪乱させているのか。

##### 【事務局】

・国の方では行っていないが、今年初めて漁協のほうで、河床材料をゆるめる作業をした。

##### 【委員】

・両国橋付近より上流区間は河床の粗粒化はしておらず、むしろ砂に石が埋まって極度に

安定しているように見えた。河床が安定した状態は、アユの産卵場にむかない状態で、親アユの餌場となる大きな礫も不足していると思われる。河川整備に際しては、アユ産卵場としての環境と親アユの生息環境の両方が必要。

- ・ 礫の空隙を砂が埋めてしまっているとすれば、水生昆虫やカワニナが棲みにくい環境となっている可能性がある。
- ・ ダムの下流の土砂還元については、このような現地の状況を良く把握したうえで方法を慎重に検討する必要がある。
- ・ 土砂の減少よりも、ダムでの洪水調節による流量の安定化により、河床の攪乱が減少していることがより問題かもしれない。
- ・ 両国橋付近の産卵場でふ化したアユの仔魚は、2日以内で海までおりなければならないが、中市堰での滞留や取水による影響により、海への降下が阻害されている可能性も考えられる。ダムからの放流方式を工夫することで、アユの仔魚が、できるだけ速やかに河口域にたどり着けるように改善できる可能性があるのではないかと。

### 中市堰について

#### 【座長】

- ・ 洪水時に堰のゲートはどうなるのか。堰貯水池に堆積した土砂は下流へ流れるのか。

#### 【事務局】

- ・ 洪水規模により必要に応じてゲート操作を行っている。洪水規模によっては、全転倒する仕組みとなっているため、堰貯水池に堆積していたものは下流へ流れる。

#### 【座長】

- ・ 土砂の堆積により、堰のゲート操作に支障はないのか。毎年、堰の操作を実施しているのか。

#### 【事務局】

- ・ 洪水時の土砂の堆積によってゲートが起伏できないことは、これまではない。今年の7月にもゲートを全転倒する操作を実施しており、年に数回は洪水時に堰のゲートを転倒する操作を実施している。

#### 【座長】

- ・ 地元からヘドロのにおいに関する意見があったようだが、去年まで堆積していたヘドロが今年の洪水で流されたために、今年の底質調査でヘドロの堆積がなかったということは考えられないか。

#### 【事務局】

- ・ ヘドロのにおいについては、去年までは底質調査を実施しておらず、因果関係は不明である。

### <議事について>

#### ●現地視察を踏まえた、小瀬川の特徴と課題について

- ・ バス車中にて、事務局より小瀬川の特徴と課題について説明

### 外来種対策について

#### 【委員】

- ・ 戦後、外来種（ブラックバス、ニゴイ等）がものすごく繁殖して、以前小瀬川にいた魚がほとんど捕食されているという話を聞いている。現在、小瀬川において外来種で外敵になる魚を駆除しているか、どのぐらい生息しているのか、教えていただきたい。

#### 【事務局】

- ・ 両国橋地点において、外来種としてはブルーギルが確認されている。捕食性の高いものではあるが、現在、漁協並びに国土交通省としても特段に捕獲といった行動は起こしていない。

### 堤防の強度について

#### **【委員】**

- ・大竹市元町4丁目（三菱レイヨンの水源地の約100m下流）が大竹の一番最初の堤防になり、そこが決壊をすると、大竹はほとんど浸水するという恐ろしさを今持っている。この堤防は、戦後のルース台風以後に施工されたままのような気がする。また、小瀬川本流と和木の関ヶ浜川がちょうどぶつかる地点になり、この堤防が水衝部となるどころだと思うので、一度堤防状況を専門的に見ていただきたい。

#### **【事務局】**

- ・資料-1の2ページのとおり、堤防点検を実施しており、安全性が低いところは確認している。安全性の低いところを順次整備するという形で整備計画の中で位置づけていきたいと考えている。

### 河川利用（中津原水辺の楽校）について

#### **【委員】**

- ・大竹市木野の、中津原水辺の楽校の河川敷に下りる進入路にはゲートやチェーンが設置してあるが、開放していただいたほうが利用しやすいと思う。以前は2台ぐらい車が置いていたが、現在は車で降りられず、駐車もできないため、水辺の楽校の使い方としてどうかといつも思っている。

#### **【事務局】**

- ・木野の水辺の楽校は大竹市が占有されており、グラウンド・ゴルフをほぼ毎朝、地元の方20名程度で使用されている状況である。維持管理も地元自治体が主体で行われている。河川敷の芝生が傷むことを避けようという思いで、進入路にチェーンをされているのだろうと思う。いただいたご意見について大竹市と調整させていただきたい。

### 地域連携（弥栄ダム湖周辺の利用）について

#### **【委員】**

- ・第1回の会議で、広島県側の弥栄峡は古くから観光地で利用者も多いが、山口県側に新しく整備されたところではあまり利用者がいないと発言したが、明神原なごみ広場の現地視察で、結構利用者があるということが分かった。明神原なごみ広場の近くに、かなり由緒のある大きな神社があるので、神社のお祭りと明神原なごみ広場の利用をマッチさせたら良いと思う。

### 流域全体で考える河川環境について

#### **【委員】**

- ・中市堰のヘドロのにおいの問題については、弥栄ダム上流に大きな豚舎ができており、そこのおいが川の風に乗ってずっと下流へ流れてくる。大竹の製紙工場のおいと豚舎のおいとは全く違うので、恐らく豚舎の廃棄物処理場のおいが川を伝わって下流まで来ているという可能性があるのではないかと。
- ・小瀬川下流域でカワウ防止対策を行った関係で、現在、弥栄ダム上流域にカワウの生息域が変化しており、上流のアユを捕食するという状況である。また、小瀬川ダムの現在の土砂流入量はものすごく増えている状況である。
- ・上流域においても問題点があることから、弥栄ダム上流域の河川環境の現状や調査などを盛り込んだ河川整備計画の方が、小瀬川流域住民の理解が得やすいのではないかと。

#### **【事務局】**

- ・河川整備基本方針は、長期的な河川整備の目標であることから、流域全体の計画を策定している。
- ・河川整備計画では、国管理区間の20～30年という比較的短い期間で、今後どういう整備を実施するかを決めていくものである。

- ・流域全体で計画を策定するという視点は非常に大事であると考えているが、広島県・山口県が管理している上流域について国の計画に記述することは、行政上難しいところがある。ご指摘の内容は両県にお話しするというところで、当面、ご理解いただきたい。

#### 樹木管理について

##### 【座長】

- ・樹木管理は、不法投棄対策だけではなく、治水の観点からも大きな影響を及ぼすため、河道全体で優先順位をつけて管理していくことが必要である。

#### 河道掘削と環境について

##### 【座長】

- ・河道掘削等が必要な箇所では、魚類等の生息域に配慮した計画内容としてほしい。

#### 住民への情報提供について

##### 【座長】

- ・流域住民の方々は、中市堰が洪水時に堰のゲートを転倒していることや不法投棄の現状等、知らない情報が多くあるかもしれない。小瀬川に関する情報をもっと住民の方へ提供して欲しい。

#### ●河川整備計画に関するアンケート集計の中間報告について

- ・事務局より住民意見・アンケート集計結果（中間）について説明

#### 堤防の地震（津波）に対する安全性について

##### 【委員】

- ・資料－２の１ページのとおり、住民意見として「津波」に対する不安感が出ている。河川整備計画の対象期間30年であれば、おそらく南海地震が来る確率が非常に高いのではないかと思う。津波対策について、レベル２地震動の包含範囲と合致していれば広島県防災計画書に従って対策すればよいが、加速度だけではなく、長周期による波（震度５弱～５強、継続時間150秒以上の揺れ）を考慮した液状化判定の確認は必要と思う。

#### 地域防災について

##### 【委員】

- ・地域防災に関する河川整備計画本文の記載表現については、住民側のソフト対策の意識を弱めないよう、ハード整備とソフト対策のバランスを工夫して表現する必要がある。

#### 河口部ヨシの保全について

##### 【委員】

- ・資料－２の１ページのとおり、河川環境に関する住民意見で「河口部唯一のヨシを是非残してほしい」とある。
- ・小瀬川河口部の塩生植物については、以前（第一回河川水辺の国勢調査時点）はヨシだけではなく、ハマサジとハママツナが少しあったが、現在（第二回河川水辺の国勢調査以降）はヨシとナガミノオニシバの２種類だけになった。
- ・太田川放水路に全国的に見ても非常にすぐれた塩生植物群落があるが、河川の流れと、潮の干満のバランスで成立するため、なかなか人間が思うように定着せず、人工的に植えるのも難しい。自然の成り行きに任すしかない。

**【事務局】**

- ・太田川放水路には貴重な塩生植物群落が残っており、現在、太田川生態工学研究会を立ち上げて、植生基盤となる河川干潟の再生・保存の仕組みを研究している。いずれは太田川での成果を小瀬川を含めた他河川でも展開したいと考えている。

維持管理（河川清掃・地域連携）について

**【委員】**

- ・資料－２の14ページ、河川のゴミ問題の住民意識として、５割の方が行政任せではなくて地元の者も参加して河川清掃をしたいという意見は、下流域・上流域の住民ともほぼ一緒であると思う。しかし、弥栄ダム上流域において河川清掃で最も困ることは、回収した不法投棄ゴミ（テレビやパソコン等の大型ごみ）を処理するのに回収者が費用負担することであり、なかなかゴミの減量に繋がらない現状である。下流では堤防も高く、住民の目もあることから、弥栄ダム上流で不法投棄が行われているが、流域住民はゴミ問題の現状を知らない方が多いと思う。
- ・国の立場で、上・下流の住民が連携した河川清掃の実施や、意見交換できる場を設けるなど検討いただければ、不法投棄が減るのではないかと思います。

**【委員】**

- ・住民意識として６割近くの方が、ゴミや雑草が多いと回答されているが、一斉清掃は実施されているのか。

**【事務局】**

- ・７月にクリーン小瀬川という一斉清掃を行っている。

**【委員】**

- ・年に１回の河川清掃では、手が届かないところがあるのではないかと。

**【事務局】**

- ・国管理区間でゴミがよく捨てられる場所は調査しており、河川内に木が繁茂している場所等が該当する。河川巡視しやすい方策やモラルの向上に努めていくことが重要と考えている。

**【委員】**

- ・地元の方と協力して、うっそうと茂った河原をきれいにする地域もある。小瀬川においても、国の費用だけでできるようなことではないと思うので、地元の方が小瀬川をきれいに守ろうという気持ちを持つような取り組みが必要なのではないかと思う。クリーン小瀬川では、河原に茂った樹木や雑草の除去作業も実施しているのか。

**【事務局】**

- ・クリーン小瀬川では樹木や雑草の除去作業については実施していないが、河川管理者だけではなく、地域住民と一緒に一斉清掃（ゴミ拾い）を実施している。河川内に樹木が繁茂している場所については、河川巡視に支障があるところ、ゴミが捨てられやすいところについて、河川管理者で維持管理していくことを考えている。